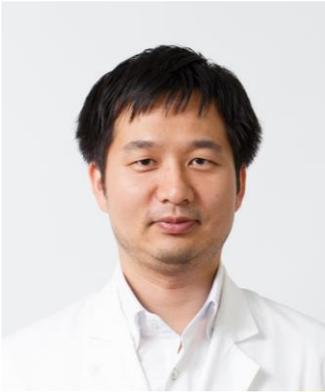


若手医師の活躍をご紹介します

国際頚椎学会で大門憲史医師が
Best Clinical Poster Award を
受賞しました

整形外科・脊椎センター大門医師が頚椎分野で最も権威のある国際学会である国際頚椎学会（フロリダ・2017）の Best Clinical Poster Award を「A20-year prospective longitudinal study on degeneration of the cervical spine using MRI in volunteers」で受賞いたしました。193名の健常者の20年前の頚椎MRI画像と新たに撮影した画像の変化を調査し、加齢性の変化を明らかにしたものです。20年間では95%の被験者に何らかの画像上の加齢性変化がみられ、また画像上の変化は必ずしも頸部痛や肩こりの発現に関連しないことが発表されました。



整形外科
大門 憲史 (だいまん けんし)

日本整形外科学会専門医

2009年慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学病院等を経て、2016年荻窪病院着任。「患者さんとともに最善の方法を選択し、治療を行っていきたくと考えております」

20年という長期における頚椎画像を現在と比較した研究は世界的に例がなく、



受賞式にて

頚椎疾患の治療方針や術後の長期経過を見る上で貴重なデータとなることが、高く評価されての受賞です。

脊椎を専門とする大門医師。「今回、運よくアワードを受賞することができました。本研究はまだ続いておりますが、外来や手術など日頃の診療にも積極的に取り組んでおります。腰痛など脊椎疾患を中心にご紹介いただきますようお願いいたします」。

ヨーロッパ血管外科学会で
飯田泰功医師の研究が
ベスト8アワードに入りました

ヨーロッパ血管外科学会（リヨン・2017）で心臓血管外科の飯田医師が「Febuxostat Pretreatment Attenuates Experimental Aortic Dissection In Mice」で、ベスト8アワードを受けました。採択率20%（ポスターのみ）、107題からの選出です。

心臓血管外科
飯田 泰功 (いいた やすのり)



医学博士
慶應義塾大学特任助教
日本外科学会外科専門医・指導医
心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医・修練指導者ほか

この研究は、実験的マウス大動脈解離モデルにおいてキササンチンオキシドレダクターゼ(XOR)阻害薬が活性酸素の発生を抑制することで抗炎症作用を発揮し、大動脈解離の発症を抑えるというものです。大動脈解離の薬物治療および予防効果の可能性を示唆した論文は少なく、その点が評価されました。

大動脈疾患、末梢血管疾患を専門とする飯田医師。「従来の open surgery に加え、近年ますます広まってきた大動脈疾患に対するステントグラフト手術も併用しながら、患者さんの病態に即した、幅広いテーラーメイド治療を実践していきたいと思っております。大動脈弁疾患に対する自己心膜を用いた再建術(AVNeo)も実施しています。先生方のご紹介をお待ちしています。全力で努力します」。

2001年東京医科大学医学部卒業。スタンフォード大学血管外科、済生会横浜市東部病院等を経て、2017年荻窪病院着任。胸部ステントグラフト指導医、腹部ステントグラフト実施医の資格も持つ。